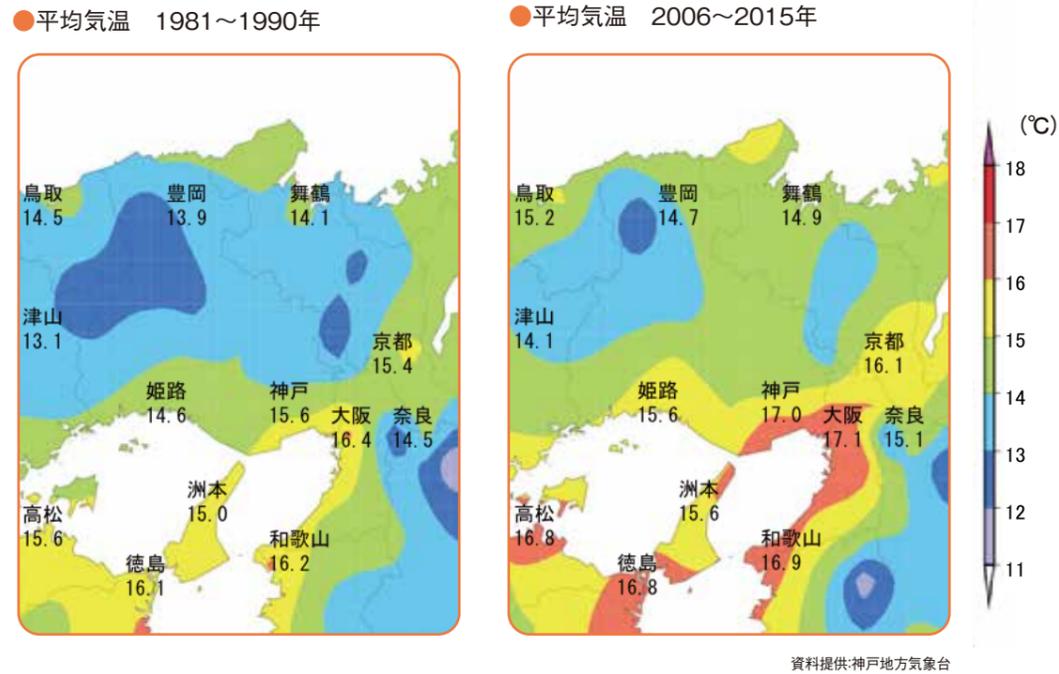


## 年平均気温が上昇している

兵庫県内のアメダス観測所の1981年から1990年と、2006年から2015年の平均気温です。15℃以上(黄色～桃色)の領域は広がり、14℃以下(灰色～水色)の領域は減少しています。



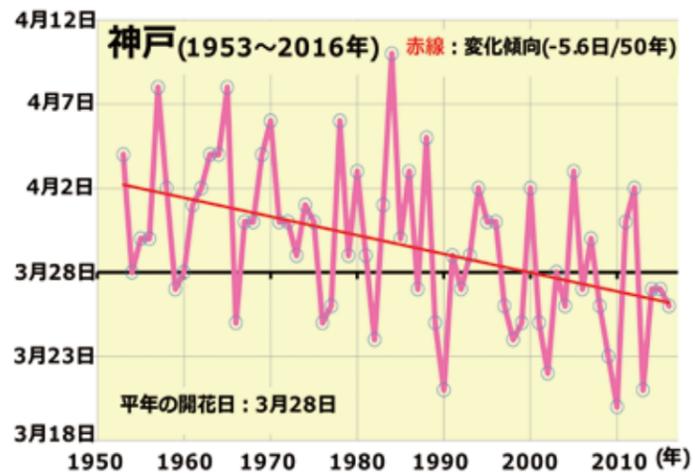
## さくらの開花が早まっている

神戸のさくらの開花日は、右図に示すとおり、50年間あたり5.6日の割合で早まってきています\*。

\*神戸のような都市部では、ヒートアイランド現象(都市部の気温が周囲の郊外よりも高くなる現象)も影響していると考えられますが、さくらの開花の時期は、全国的に早まっています。



●神戸のさくらの開花日の変化(1953～2016年)



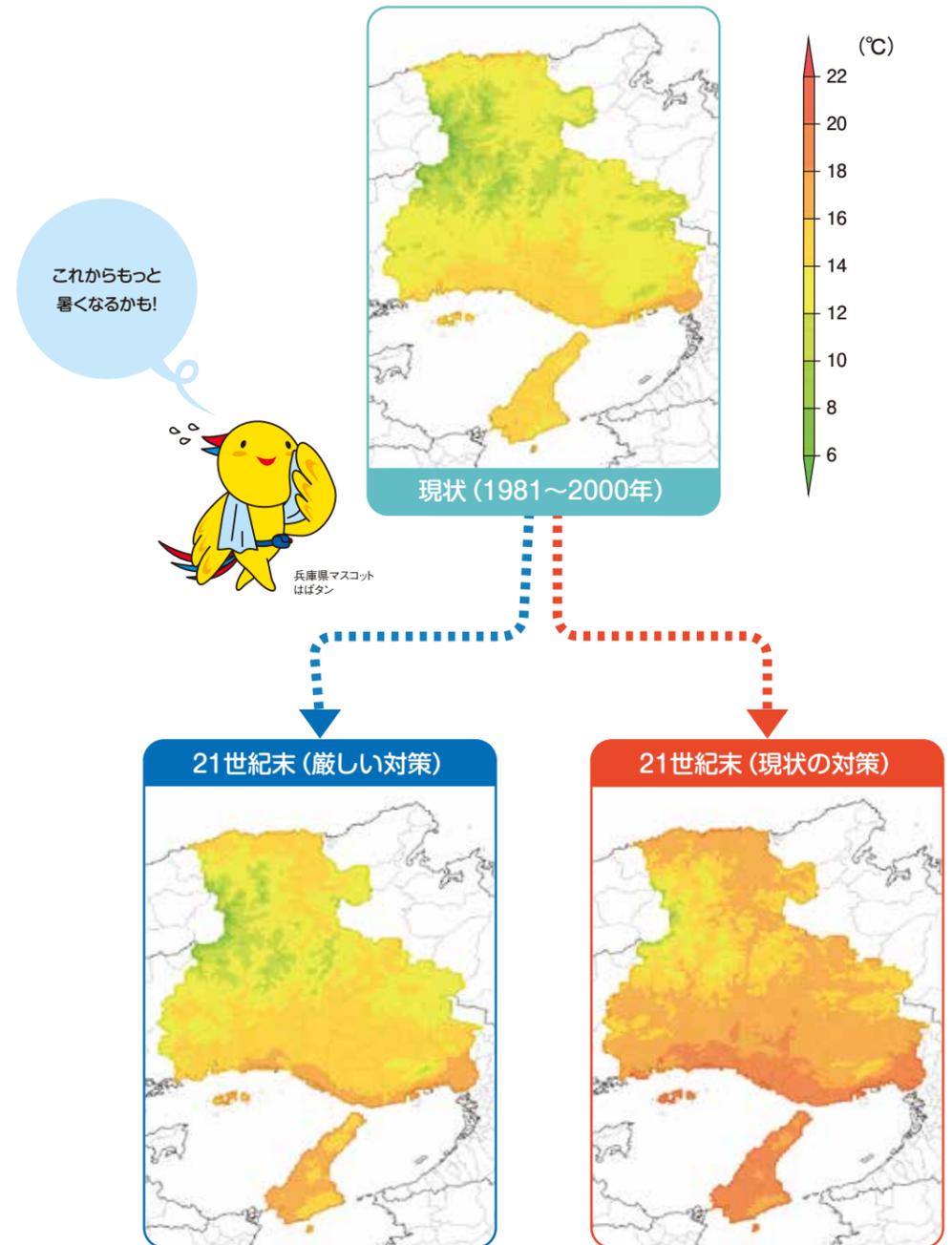
注)折れ線は各年の開花日を、直線は変化の傾向を示します。

資料提供:神戸地方気象台

兵庫県の年平均気温の将来予測を下図に示します。現状(1981～2000年)の年平均気温と比較した場合の21世紀末(2081～2100年)の年平均気温の変化は、現状以上の温暖化対策(緩和策)を実施しなかった場合、約3.5℃上昇し、厳しい温暖化対策(緩和策)を実施した場合でも約1.0℃上昇すると予測されています。

現状の対策のままでは、21世紀末に神戸地域の年平均気温が現在の鹿児島県屋久島\*と同程度になると予測されます。

\*屋久島特別地域気象観測所における年平均気温



環境省「S-8 温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究」提供データより作成  
気象庁気象研究所によるモデル(MRI)の結果